

抗ヘルペスウイルス剤

ファムビル[®]錠250mg

腎機能低下患者さんにおける クレアチニンクリアランス (CLcr) 算出法

ファムビル錠 (一般名: ファムシクロビル) は、体内で ペンシクロビル となり、主に腎臓から排泄される薬剤です。腎機能が低下している患者さん (高齢者を含む) や透析を受けている患者さんでは、本剤の排泄が遅延し、ペンシクロビルの高い血中濃度が持続するおそれがあるため、投与間隔をあけて減量する必要があります。

これらの患者さんを見極めるためにも、投与前に問診し、必要に応じて腎機能検査を実施してください。腎機能が低下している患者さんに本剤を投与する場合は、下記の腎機能に応じた本剤の減量の目安を参考に、患者さんの状態を観察しながら慎重に投与してください。

また、血清クレアチニン値からクレアチニンクリアランスを求める方法として、日本人の実測データに基づいた堀尾の式 (換算式、ノモグラム) をご紹介します。

■ 効能・効果 帯状疱疹

■ 用法・用量 通常、成人にはファムシクロビルとして1回500mgを1日3回経口投与する。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

腎機能障害患者 腎機能障害のある患者では投与間隔をあけて減量することが望ましい。
[[(参考) 腎機能に応じた本剤の減量の目安] を参照]

血液透析患者 血液透析患者には本剤250mg (1回用量の半量) を透析直後に投与する。なお、次回透析前に追加投与は行わない。

(参考) 腎機能に応じた本剤の減量の目安^(注)

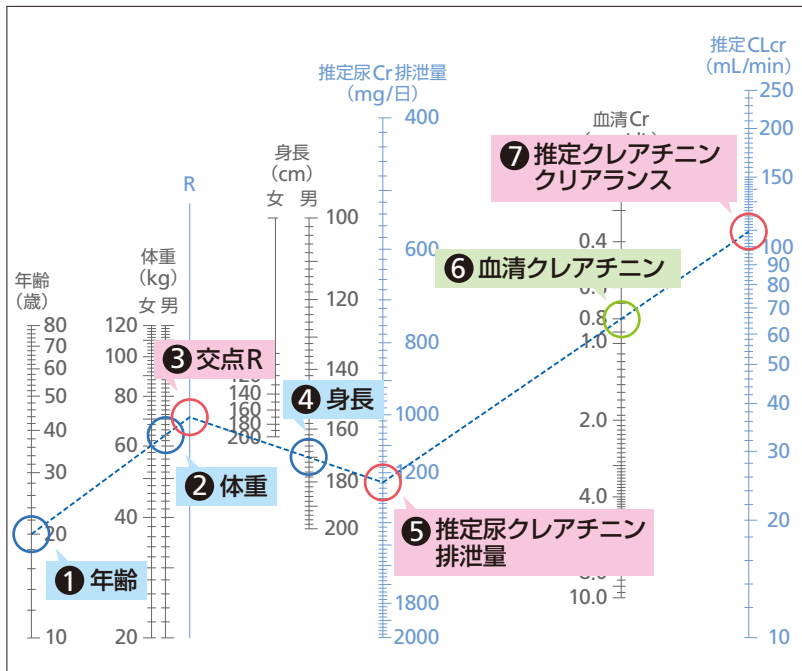
クレアチニンクリアランス (mL/min)	調節した用法・用量
≥ 60	1回500mgを1日3回
40 - 59	1回500mgを1日2回
20 - 39	1回500mgを1日1回
< 20	1回250mgを1日1回

注) 外国人における成績をもとに設定した。

禁忌を含む使用上の注意については添付文書をご参照ください。

[堀尾の式] クレアチンクリアランス (CLcr) 換算式とノモグラムの使い方

血液検査で血清クレアチン値がわかれば、下記の換算式で推定クレアチンクリアランスを算出できます。また、ノモグラムを用いれば簡単に推定クレアチンクリアランスを出すことができます。



クレアチンクリアランス換算式 [堀尾の式]

日本人298人(男性155人、女性143人)の24時間クレアチンクリアランスの実測データより作られた換算式です。

$$\text{男性: CLcr} = \frac{(-0.065 \times \text{年齢} - 0.493 \times \text{BMI} + 33) \times \text{体重}}{\text{血清Cr値} \times 14.4}$$

$$\text{女性: CLcr} = \frac{(-0.052 \times \text{年齢} - 0.202 \times \text{BMI} + 21) \times \text{体重}}{\text{血清Cr値} \times 14.4}$$

$$\text{BMI} = \frac{\text{体重kg}}{(\text{身長m})^2}, \text{血清Cr (mg/dL)}$$

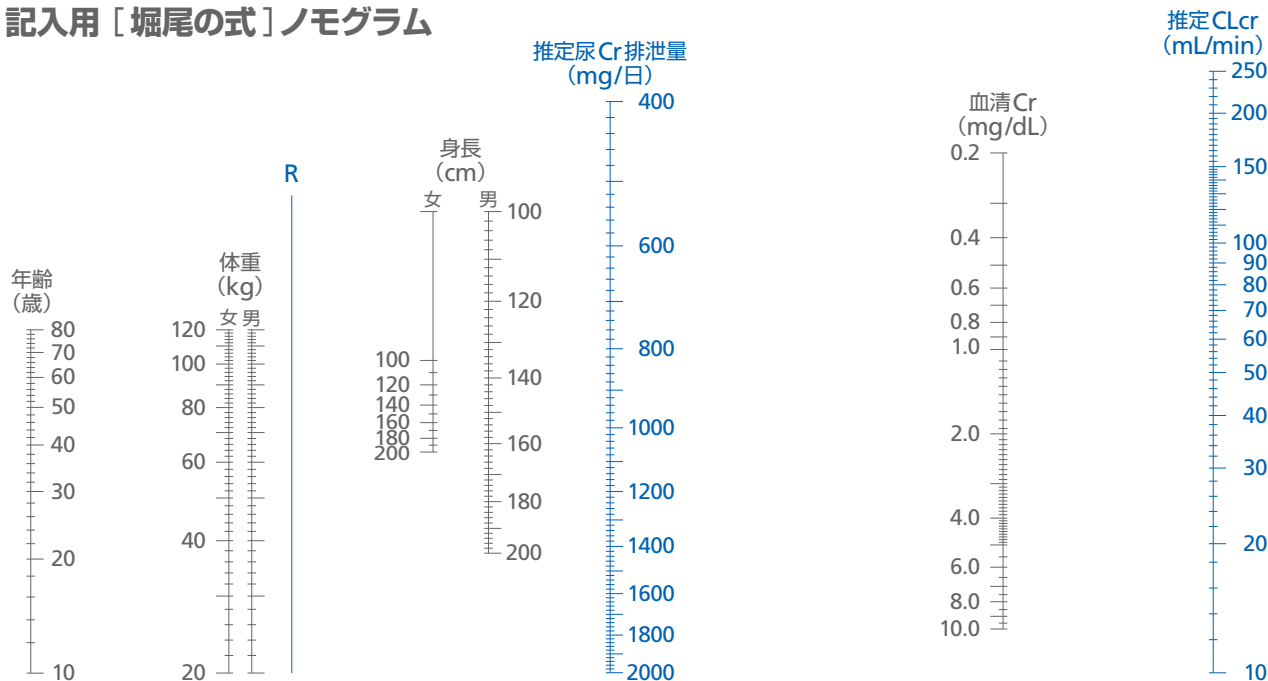
Horio, M., et al.: Clin. Exper. Nephrol., 1 (2), 110 (1997)

ノモグラムの使い方

年齢と体重の値を線で結んで、Rとの交点の位置を決めます。交点Rと身長値を結んで、推定尿Cr排泄量の位置を決めます。さらに推定尿Cr排泄量と血清Cr値を線で結んで推定CLcrとの交点から値を読み取ります。

※体重、身長は男女で別の線となっているのでご注意ください。

記入用 [堀尾の式] ノモグラム



(参考) 腎機能に応じたファムビル錠250mgの減量の目安^{注)}

クレアチニンクリアランス (mL/min)	調節した用法・用量
≥ 60	1回500mgを1日3回
40-59	1回500mgを1日2回
20-39	1回500mgを1日1回
< 20	1回250mgを1日1回

注) 外国人における成績をもとに設定した。